

「文」がもつ意味とは

盛岡第二高等学校 三年 上山 夕乃

「文」という漢字はどのような意味かと問われると、文章や作文などの意味を考える人が多くと思われるが、「文」は読み方、使い方によって大きく意味が変化するのではないかと疑問に感じた。「ぶん」「ふみ」「もん」「あや」などのたくさんさんの読み方がある漢字であるのだが、一般的には「文」は文字や文章など書き物がイメージされる。この認識は平安時代から根づいているものだ。また「ふみ」の読み方も同様に、紙に自分の気持ちをつづって相手に送る手紙の別名として平安時代に使われていた。「ふみ」「ぶん」が、文字を書く行為や、またはその書いた物自体の名称に使われているという事は誰しもが分かっていることである。では「もん」「あや」はどういう意味で使われているのだろうか。

「もん」という読み方を使う言葉を考えてみた時、一番オーソドックスなのは江戸時代から使われていた金銭の単位の「一文」の「もん」ではないかと考えた。「一文」「二文」と数えるわけだが、何故「文」という漢字を使ったのか。もちろん「もん」という読み方に「文字」や「文章」のような意味が含まれていないわけではない。現に「文句」という言葉はその字の通りの意味である。しかし金銭は文字や文章とは関係がないのだ。では何故「文」という漢字を使ったのか。私は次のように考えた。お金は自分から相手へ渡すものである。その行為は文章を書いた手紙を相手に送ることと同じであり、相手と相手の間に生まれる関係、すなわち相手に送る行為自体が「文」の意味としてあるために、「もん」という読み方で「文」という漢字を使ったのではないかと考える。

このように考えてみると、読み方によって意味は多少異なるかもしれないが、根本的なところは変わらないのかも知れない。

では、「あや」という読み方はどのように使われているだろうか。「文」と書いて「あや」と読む時の意味としては、物の表面に現れたさまざまな形や模様のことである。実際に、ほとんどの「文」を「あや」と読ませる機会はないが、昔の人々は文字や記号を一種の様として捉えていたのではないかと私は考えた。

「文」という漢字は読み方によって意味が異なる様に見えるが、深く探り下げて考えてみると、根本的にある意味、つまり、文学や詩文、文化等の芸術的なものなのであろう。漢字も、もともとは、重要な意味が込められていたのだが、今の私達は、何を考えるわけでもなく、ただ平凡と一種の「言語」として使っているだけなのである。